



未来をつくる ソーシャルイノベーション 第2部

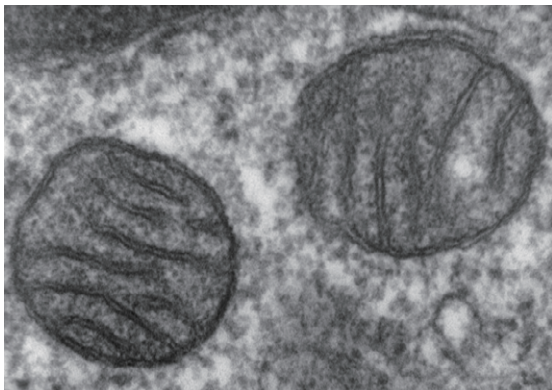
文・西村勇哉

暮らしの中から見つける変化の力

CASE:

60
最終回

人と未来 — 私たちのこれまでとこれから —



ミトコンドリアの電子顕微鏡での撮影写真。細胞の活動に必要なエネルギーであるATPを生成し、供給するほか、多彩な機能を担い、生命活動を支えている。
©Louisa Howard/Wikimedia Commons

POINT!

この宇宙の中で、知識とともに未来をつくる。



5.972×10の24乗キログラム(地球の質量)が生み出す重力が、地球に大気と水を生み出し、その結果として生命が生まれた。現在地球上には、約870万種の生物が存在すると推定されている。
©NASA/Apollo 17 crew; taken by either Harrison Schmitt or Ron Evans / Wikimedia Commons

現在の科学では、約138億年前にこの宇宙が誕生し、星々の誕生とともに宇宙に存在する元素の種類を増やしながら、約46億年前に私たちが住むこの地球が生まれたとされています。そして、最初の生命が誕生した約40億年前から地球生命の歴史が始まりました。今から約20億年前に、ある単細胞生物がほかの単細胞生物を捕食した後になぜか吸収せず、共生という新しい関係が生まれ、ミトコンドリアという器官が細胞の中に誕生しました。ミトコンドリアを得たことによって、単細胞生物はそれまでの約1000倍の大きさまで成長することが可能になり、その後、多細胞生物へと進化していきます。

私たちは、その進化の先にある子孫として存在します。人の中には、一つの細胞あたり平均300〜400個のミトコンドリアが存在し、その重量は全体重の約10パーセントを占めます。約700万年前にサルから分かれ、道具の使用、火の使用を経て、20万年前にホモ・サピエンスとして歩み始め、都市や文字をはじめとしたさまざまな文明を生み出してきた人類は、宇宙、元素、惑星、生命、そしてミトコンドリアの誕生をはじめ、途切れない結果の連なりの中で生まれてきました。

人類は、ある時はほんの小さな変化によって大きく暮らしのあり方を変え、ある時は異なる領域の変化によってまったく別の領域に大きな変化を生み出



にしむら・ゆうや ● NPO法人ミラツク代表理事。
大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材育成企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラツクを設立。Emerging Future, we already have(すでに在る未来の可能性を実現する)をテーマに、全国横断型のセクターを超えたソーシャルイノベーションプラットフォームの構築と未来潮流に基づいた新規事業創出のためのプロジェクト運営に取り組む。
<http://emerging-future.org>

し、ある時は過去の遺物に新たな価値を吹き込み、ある時は概念自体を生み出し、ある時は世界に対する認識を変え、ある時はまったくのゼロから想像力を用い、そして未だ解明されない数多くの物事とともに、自身の回りにある社会を築いてきました。

その歴史は、計画立てられたものというよりも、その時代の状況が起こした変化によって結果的に得られた足跡であり、意図の有無にかかわらず行われた小さな選択の積み重ねと言えます。そうした中で、常に前に進み続けてきたものは、受け継がれていく情報の伝達でした。人は、知識という方法で個を超えて情報を伝達し、ほかの生命にないスピードと複雑さで情報を活用してきました。

未来は常に未知の中にあります。その中で、未来を知るためではなく未来をつくるために、この宇宙で培ってきた知識を私たちは自由に使うことができます。社会は知識とともに生み出されていきます。